

青森市埋蔵文化財調査報告書 第19集

# 市 内 遺 跡

発掘調査報告書

平成4年度

青 森 市 教 育 委 員 会

## 序

私どもの住んでいる青森市は、現在約30万の人口をかかえ県内の政治・経済・文化等の中心的機能を担い発展してきておりますが、今日の発展した当市の原動力は、はるか遠い過去から脈々と築きあげてきた先人のたゆまぬ努力と英知、そして、いつの時代にもかわることなく彼らの生活を支えてきたむつ湾や入甲田連峰に代表される豊かな自然の恩恵の賜ものによるものと認識しております。

住みよい今日に暮らしている私たちは、先人に感謝するとともに先人に恥じぬよう彼らの残してくれた貴重な文化遺産を保護し後世に正しく伝えていくことが責務ではないかと考えております。

しかし、近年全国的に土地を媒介とした多種多様の開発事業計画が急増の傾向を呈してきており、当市もその例にもれず、各種の開発計画が年ごとに増加してきております。

このような急増する開発計画により、先人の残してくれた貴重な市民共有の文化遺産、とりわけ大地の下に眠っているという特異性を有する埋蔵文化財は、現在重大な危機に直面しているといえます。

開発事業と埋蔵文化財保護の相対する両者の調整は、困難を極めることが必至でありますことから、この度、当委員会では、国・県の補助金の交付を受け、市内遺跡発掘調査事業として、市内の埋蔵文化財の現状をより一層詳細に把握するとともに、開発と保護の円滑な調整が図られるよう、市内の埋蔵文化財に関する資料を整備する目的で調査を実施いたしました。

本書は、このような観点により平成4年度に実施した調査の成果をまとめたものであります。本書がいささかでも埋蔵文化財の保護及び啓蒙に、さらには当市の歴史解明の一助となればと念願しております。

最後となりましたが、ここに本書を刊行することができましたことは、文化庁・県教育庁文化課はもとより、調査員をはじめとする関係各機関・各位のご指導、さらには発掘調査地所有者祝田周吉氏の格別のご協力の賜ものによるものと、ここに深く感謝の意を表する次第であります。

平成 5 年 3 月

青森市教育委員会

教育長 花 田 陽 悟

## 例 言

1.本書は、国庫補助金交付を受けて平成4年度に実施した青森市内遺跡発掘調査事業の報告書である。本書には、次に掲げる遺跡の発掘調査と分布調査を収録してある。

久栗坂浜田(1)遺跡

2.土色の観察は、「新版標準土色帖」10版(1990)に基づいている。

3.出土遺物は、青森市教育委員会が保管している。

4.本書の作成にあたり、次の機関・諸氏にご指導を賜った。ここに深く感謝の意を表する次第である。

文化庁・青森県教育庁文化課・青森県立郷土館・祝田周吉・熊谷邦雄・前田武一

# 目 次

序	
例言	
目次	
第 章 事業実施の概要	1
第1節 調査に係る経過	
第2節 調査要項	
第 章 久栗坂浜田(1)遺跡発掘調査	3
第1節 調査概要	3
1. 調査に至る経緯	
2. 遺跡の位置	
3. 周辺の遺跡	
4. 調査方法	
第2節 基本層序	5
第3節 出土遺物	8
第4節 小 結	9
第 章 分布調査	9
第1節 調査地区	9
第2節 対象遺跡	10
第3節 小 結	15
ま と め	16

付図 青森市遺跡地図

## 第 章 事業実施の概要

### 第 1 節 調査に至る経過

近年、急激な都市化の進行やリゾート開発計画などにより、大地を対象とした造成、とりわけ大規模な開発工事が急増してきており、埋蔵文化財が危機に直面する事例は、年毎に増加の傾向を示してきている。

このような急増する開発事業と危機に晒されている埋蔵文化財保護の両者を円滑に調整するためには、埋蔵文化財保護の立場として、市内に所在する埋蔵文化財包蔵地に関する、より詳細な資料を整備し対処していく必要がある。

以上の現状をふまえ、今後埋蔵文化財保護行政をより一層推進していくためには、少なくとも土地開発予定地を中心とした地域の分布調査と、これまで範囲や時代が不明確であった遺跡及び埋蔵文化財推定地の試掘あるいは発掘調査を実施することが急務であるといえる。

このようなことから、本年度は、開発が予想される地域及びその周辺の分布調査を行い埋蔵文化財包蔵地の把握に努めるとともに、より詳細な資料を把握する必要がある埋蔵文化財包蔵地あるいは推定地について一部発掘調査を実施するものである。

### 第 2 節 調査要項

#### 1. 文化財名及び所在地

埋蔵文化財包蔵地発掘調査 青森市大字久栗坂（第 章）

埋蔵文化財包蔵地分布調査 青森市内 11 か所（第 章）

#### 2. 調査期間

平成 4 年 10 月 1 日～平成 5 年 3 月 31 日

#### 3. 調査主体者

青森市教育委員会

#### 4. 調査体制

調査員 葛西 励（青森山田高等学校）

高橋 潤（青森山田高等学校）

坂本 洋一（青森県立図書館）

水田 政雄（（株）青森清掃用品社）

岩田 満（（株）あるてす）

長崎 勝巳（青森市立久栗坂小学校）

調査事務局 青森市教育委員会

教育長	花田	陽悟
理事・教育次長	阿部	祐之助
社会教育課長	寺沢	松三郎
同課長補佐	遠藤	正夫
同課指導主事	長沼	圭一
〃	徳差	義男
〃	小林	淳
同課主事	武田	均
〃	田沢	淳逸
〃	上野	隆博

5. 調査方法

発掘調査は、2m幅を基本にトレンチを設定し調査を実施した。

分布調査は、開発が予想される地域とその周辺地域や文献資料に表われている遺跡の確認調査を併せて実施した。

6. 出土遺物の措置

青森市教育委員会で保管している。

# 第 章 久栗坂浜田（1）遺跡発掘調査

## 第1節 調査概要

### 1. 調査に至る経緯

平成4年9月、市内久栗坂に住む祝田周吉氏より同地自宅近くの畑を耕作中に土器が出土したとの連絡を受け、現地を視察したところ縄文時代晩期の遺物の破片が多数見られた。当該地は、周知の遺跡ではなく、また青森市東部の遺跡の希薄な地域であるため、久栗坂地区の歴史を探るための足がかりになると考え調査することに至った。遺跡名は、字名をとり、久栗坂浜田（1）遺跡とした。

### 2. 遺跡の位置

今回発掘調査した場所は、青森市の中心部から北東に約10kmの久栗坂地区に位置している。当該地は、西側に鼻繰崎と山野峠、南側を田頭山と片越山、東側を小松山と三方を山に囲まれ、北側に陸奥湾を臨む。片越山と小松山の間を流れる根井川が沖積平野を形成し、発掘調査地点は根井川の左岸の沖積平野の中央部に位置し、標高7m前後である。

### 3. 周辺の遺跡

周辺の遺跡をあげると、縄文時代後期の石棺墓を伴う山野峠遺跡、縄文時代晩期の貝塚を伴う大浦遺跡、縄文時代晩期の長森遺跡、中世の館跡の多宇未井館遺跡がある。また、地域住民からの聞き取り調査によると、当該地の東側約200mの畑、バイパス側の畑、浅虫中学校の南側スキー場斜面の裾野から土器片や甕が出土しているとのことである。また、調査中に西側約300mの畑から縄文時代中期の土器片とくぼみ石を表面採集した。（久栗坂浜田（2）遺跡）



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

#### 4. 調査方法

調査は、平成4年12月3日から開始した。土地の傾斜に合わせてトレンチを東西に2本設定した。基本層序は、第 層耕作土、第 層黒色土、第 層漸移層、第 層ローム層にわかれる。

遺跡番号 01200

遺跡地番 青森市大字久栗坂 358 - 1 祝田周吉氏所有地

調査期間 平成4年12月3日～同年12月10日

立 地 沖積平野

現 況 畑地 標高約7m

種 別 散布地

調査面積 70 m<sup>2</sup>



第2図 トレンチ配置図



写真1 遠景 W→E



写真2 近景 S→N



## 第2節 遺跡の基本層序

調査区域内における土層の観察は、Aトレンチ東壁の堆積状況を基準とすることにした。

調査区域内の基本層序は、以下のとおりである。

第 層：暗赤褐色土 5YR4 / 3

耕作土

第 層：黒色土 10YR2 / 1

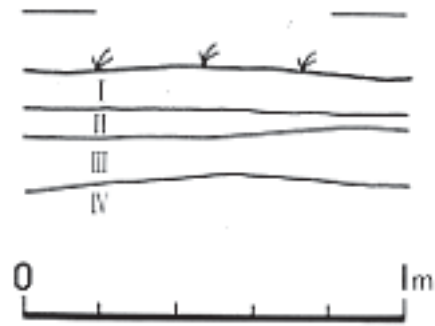
ロームブロック混入

第 層：褐色土 7.5YR4 / 3

漸移層

第 層・明褐色土 10YR7 / 6

ローム層



第3図 A T-1 東壁セクション

## 第3節 出土遺物

遺物は、ダンボール2箱出土した。出土層位は、第 層から第 層上面にかけて出土したがほとんどは第 層からである。土器片から考えられる器形は、台付鉢・浅鉢・深鉢である。

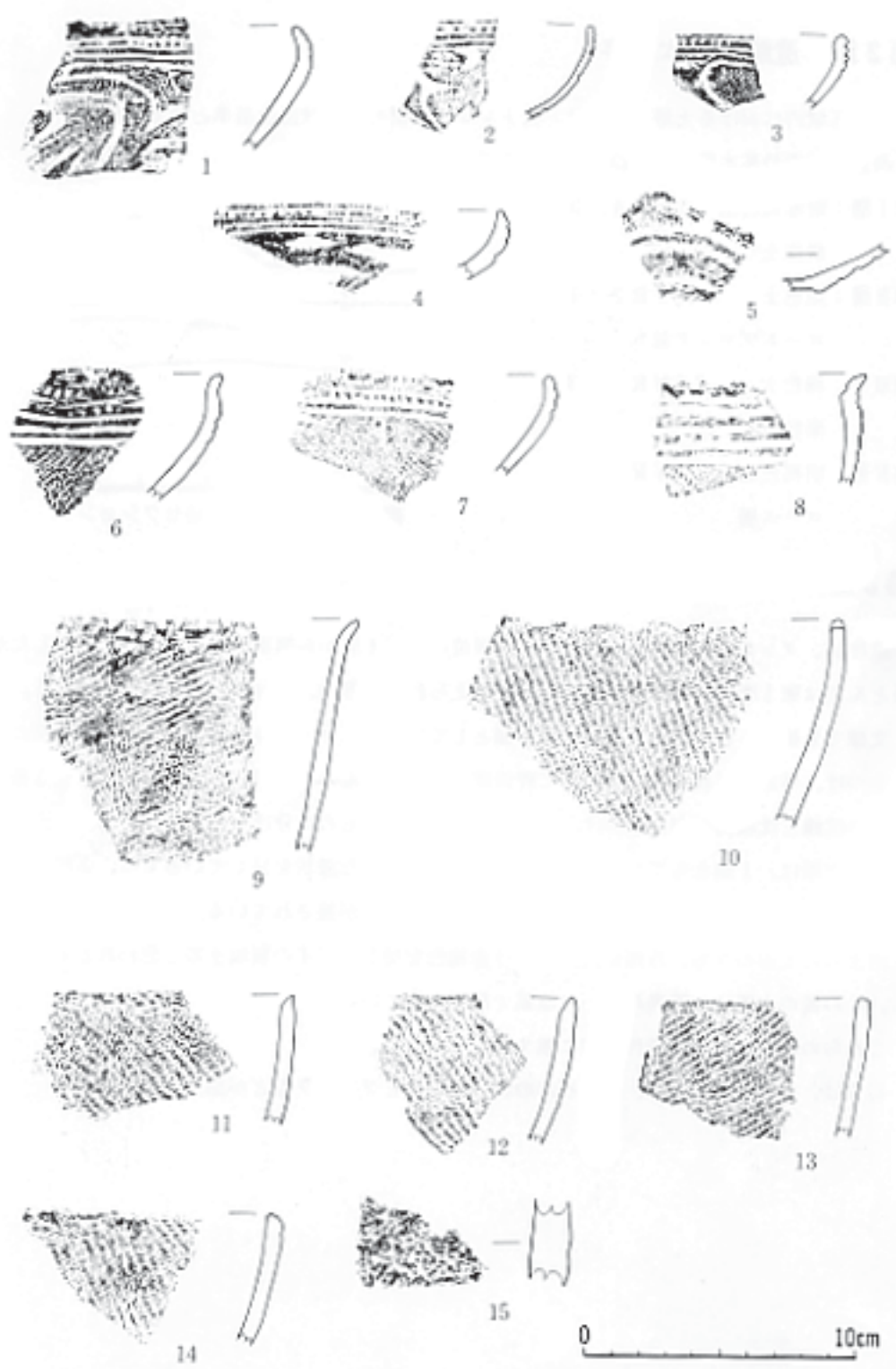
文様で分類すると、精製土器では、1類として口縁部に2～3条の横位の沈線と沈線間に刻目をつけ、体部に篋状工具を使用して磨消縄文を施したもの、2類として口縁部に2～3条の横位の沈線と沈線間に刻目をつけ、体部に斜縄文を施すものに分けられる。

粗製土器は、1類として口縁部が指でつぶされたような波状を呈しているもの、2類として口縁部が平縁なものに分けられ、どちらも体部に斜縄文が施されている。

出土した土器のうち、外面が火熱をうけ赤褐色を呈した厚手の製塩土器と思われるものがある。この種の土器は、陸奥湾沿いの地域で確認されている。

これらの土器は、縄文時代晩期に属するものである。

石器は、出土量は少なく、磨製石斧の柄、礫石器とフレイクなどが出土している。



第4圖 出土遺物

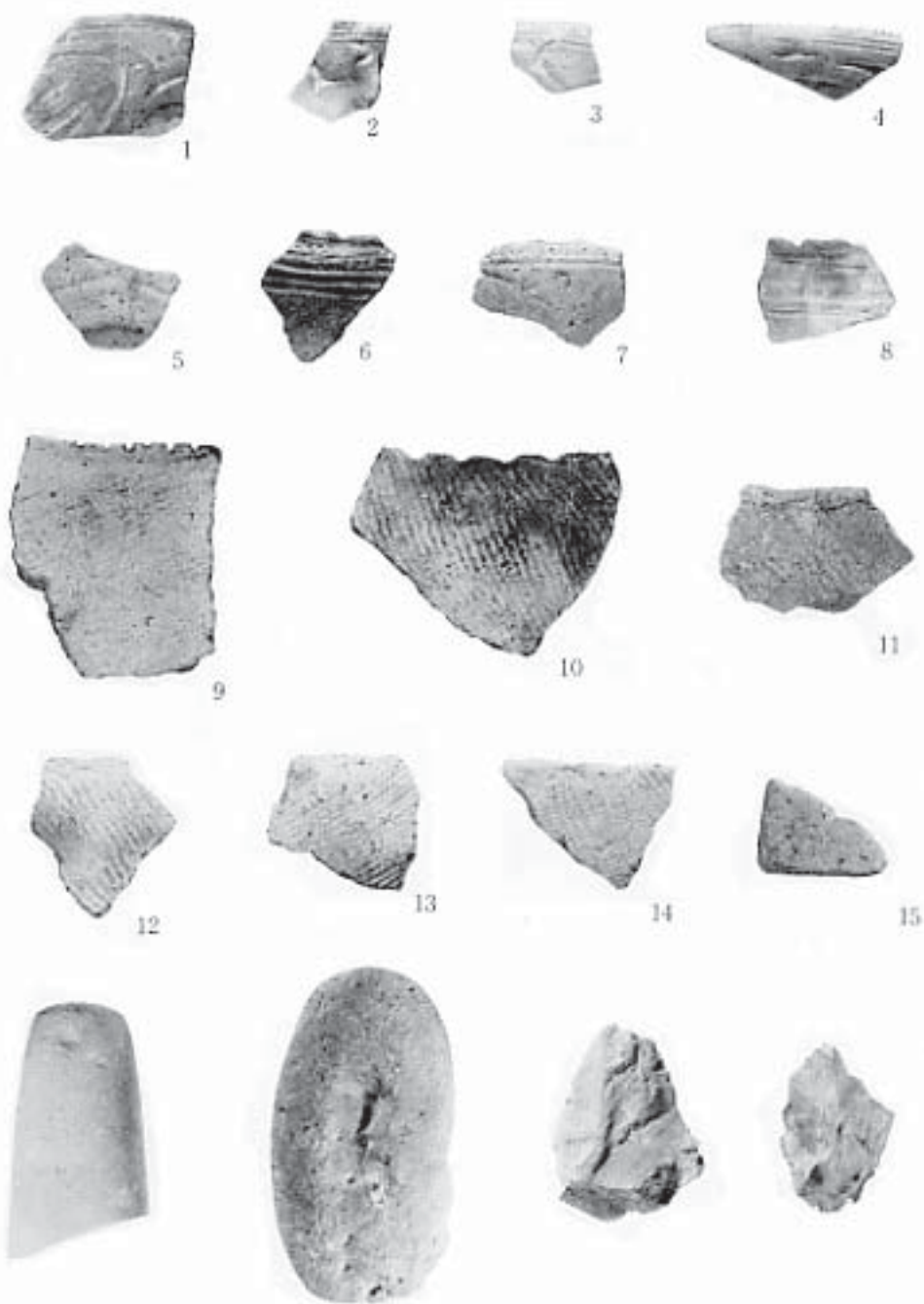


写真3 出土遺物

#### 第4節 小結

発掘調査地点から遺構は検出されなかった。出土遺物は、縄文時代晩期中葉の大洞C<sub>1</sub>式である。ほとんどが粗製土器で占められ、土器の摩滅が激しく小片のため復原は不可能であった。出土層位は、前述のとおり第 層の耕作土中から第 層上面である。当初、遺物包含層と考えていた第 層からの出土がみられなかったのは、耕作の際に使用している耕転機による攪乱と、本来の包含層が薄かったものとする。

また、製塩土器については、発掘地点から東側約1.5kmの大浦遺跡での出土例がある。発掘地点は、大浦遺跡のように汀線から近距離ではないものの、製塩土器の破片と思われるものが出土したことから製塩が行われていた可能性は否定できない。

本遺跡の性格は、標高などの立地条件を考え合わせると、キャンプサイトの役割をもった遺跡と推察される。



写真4 出土状況

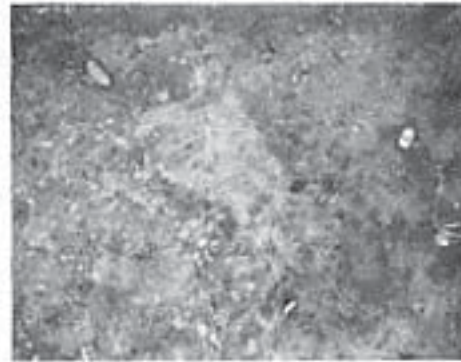


写真5 出土状況



写真6 作業風景



写真7 作業風景

## 第 章 分布調査

### 第 1 節 調査地区

分布調査は、10月から12月下旬まで実施した。分布調査の対象地域は、標高約500m以上の山岳地帯及び海・河川を除く標高約20～200mの開発が予想される地域及びその周辺地域の未登録の埋蔵文化財包蔵地の把握に努めるとともに、より詳細な資料を把握する必要のある周知の遺跡や文献に表われている遺跡について分布調査を実施した。

- 矢田・久栗坂地区...<sup>ながもり</sup>長森、<sup>つきのきだていわせ</sup>築木館岩瀬、<sup>つきのきだてぬのびき</sup>築木館布引、<sup>くぐりざかはまだ</sup>久栗坂浜田(2)、<sup>みやた やました</sup>宮田山下(1)遺跡
- 桑原地区...<sup>とざきだて</sup>戸崎館、<sup>ごぼうばたけ</sup>午葵畑遺跡
- 横内・合子沢地区...<sup>も や やまがき</sup>雲谷山吹(1)遺跡
- 戸門地区...<sup>しんじょうやまだ</sup>新城山田(2)遺跡
- 野木和地区...<sup>あすかやまだて</sup>飛鳥山館遺跡
- 三内・細越地区...<sup>みやすいてんくう</sup>安田水天宮(2)遺跡



## 第2節 対象遺跡

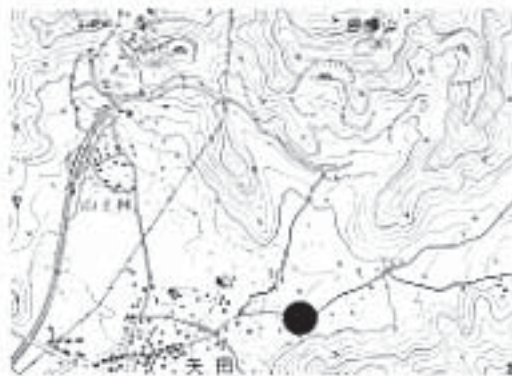
矢田・久栗坂地区

遺跡番号	01002	現況	畑地
遺跡名	長森遺跡	時代	縄文時代晩期
所在地	青森市大字矢田字山野	出土遺物	
種別	包蔵地	備考	昭和58、59年に発掘調査され貴重な晩期の遺跡であることが確認されている。
立地	段丘斜面		

写真8 遠景 N→S



第6図 位置図



遺跡番号	01003	現況	畑地
遺跡名	築木館岩瀬遺跡	時代	縄文時代前・後・晩期、平安時代
所在地	青森市大字築木館字岩瀬	出土遺物	
種別	包蔵地	備考	付近で土取りが行われ遺跡の破壊の危機にさらされている。
立地	段丘斜面		

写真9 近景 S→N



第7図 位置図



遺跡番号	01004	現況	畑地
遺跡名	築木館布引遺跡	時代	縄文時代前・中・後期
所在地	青森市大字滝沢字下川原	出土遺物	
種別	包蔵地	備考	付近で土取りが行われ遺跡の破壊の危機にさらされている。
立地	段丘上		

写真10 遠景 W→E



第8図 位置図



遺跡番号	01201	現況	畑地
遺跡名	久栗坂浜田(2)遺跡	時代	縄文時代中期
所在地	青森市大字久栗坂字浜田	出土遺物	土器5片
種別	散布地	備考	久栗坂浜田(1)遺跡の周辺調査時に確認した。
立地	段丘斜面		

写真11 遠景 E→W



第9図 位置図



遺跡番号	01202	現況	原野 一部削平
遺跡名	宮田山下(1)遺跡	時代	縄文時代前期
所在地	青森市大字宮田字山下	出土遺物	土器1片
種別	散布地	備考	文献にある滝沢遺跡と考えられるが字名をとり宮田山下(1)遺跡とした。
立地	山麓斜面		

写真12 遠景 S→N



第10図 位置図



#### 桑原地区

遺跡番号	01022	現況	山林
遺跡名	戸崎館遺跡	時代	中世
所在地	青森市大字戸崎字宮井	出土遺物	
種別	館跡	備考	道路建設予定地内に一部含まれている。
立地	丘陵上		

写真13 遠景 S→N



第11図 位置図



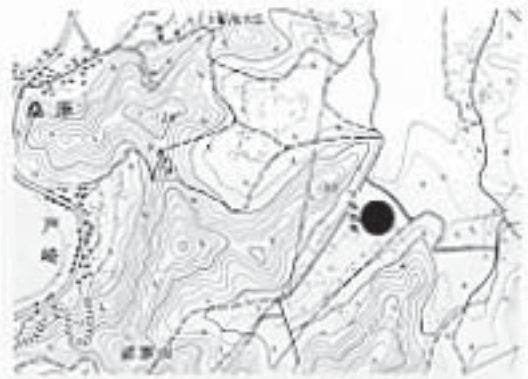


遺跡番号	01191	現況	溜池
遺跡名	午莠畑遺跡	時代	縄文時代中期・弥生時代・平安時代
所在地	青森市大字諏訪沢字山辺	出土遺物	
種別	散布地	備考	大規模開発計画予定地に隣接している。
立地	低湿地		

写真14 遠景 S→N



第12図 位置図



横内・合子沢地区

遺跡番号	01199	現況	畑地
遺跡名	雲谷山吹(1)遺跡	時代	縄文時代後期
所在地	青森市大字雲谷字山吹	出土遺物	
種別	散布地	備考	開墾による遺跡の破壊のおそれがある。
立地	山麓斜面		

写真15 遠景 S→N



第13図 位置図



戸門地区

遺跡番号	01203	現況	山林
遺跡名	新城山田(2)遺跡	時代	不明
所在地	青森市大字新城字山田	出土遺物	土器2片
種別	散布地	備考	周知の遺跡に新城山村遺跡があるため 新城山田(2)遺跡とした。
立地	丘陵上		

写真16 遠景 W→E



第14図 位置図



野木和地区

遺跡番号	01204	現況	山林
遺跡名	飛鳥山館遺跡	時代	不明
所在地	青森市大字飛鳥字山田	出土遺物	
種別	館跡	備考	空堀が認められる。
立地	山頂		

写真17 遠景 E→W

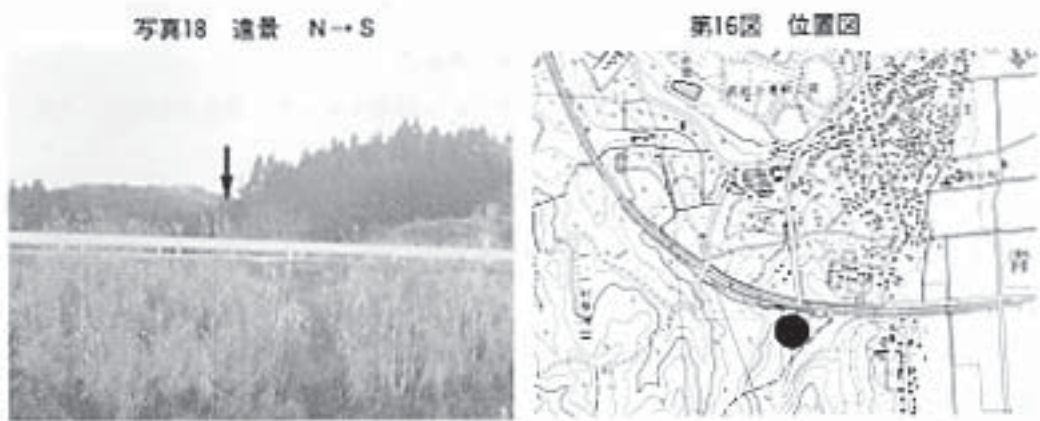


第15図 位置図



三内・細越地区

遺跡番号	01205	現況	畑地、山林
遺跡名	安田水天宮(2)遺跡	時代	縄文時代後期
所在地	青森市大字細越字栄山	出土遺物	
種別	散布地	備考	隣接して安田水天宮遺跡があるため字名を使わず安田水天宮(2)遺跡とした。
立地	段丘斜面		



第3節 小結

市内6か所に調査地区を設け実施した分布調査の結果、久栗坂浜田(1)遺跡を含め新たに7か所の遺跡が確認された。

現在、青森市の周知の遺跡は、分布調査を実施し確認した7か所を含めると205か所になる。分布調査は、地表面に露出した遺物の表面採集や館跡などの人為的な構築物から大地に眠る遺跡を調査するため、遺跡の性格など不明な部分もある。また、未調査地区もあり、市内全域を網羅するには至っていないのが実状である。

埋蔵文化財保護行政を推進していくために今後も分布調査を継続し、遺跡の破壊を未然に防ぐとともに、開発計画と埋蔵文化財保護の調整を図っていきたいと考えている。

## まとめ

奈良県藤ノ木古墳や佐賀県吉野ノ里遺跡等に代表されるように、最近のテレビや新聞では、埋蔵文化財に関する発見ニュースが盛んに報道されている。

この埋蔵文化財関係報道が多くなってきたことは、換言すれば、その分だけ全国各地で盛んに遺跡の発掘調査が進められているということであり、事実、全国では年間1万件もの発掘調査が実施されていると言われている。

さらに、その膨大な件数のほとんどは、各種の土地を対象とした開発事業計画に係わるもので、遺跡の記録保存を前提とした事前の発掘調査である。

このように、各種の開発事業計画が急増してきている現況にあって、埋蔵文化財は、その保護の面において重大な危機に直面させられている。

常に埋蔵文化財の保護は、開発事業と表裏一体の関係にあり、増加を続ける開発事業計画の中にあつて、その対策を講じるためには、所管する地域に在る埋蔵文化財に関する、より最新かつ詳細な資料の整備を図ることである。

資料の整備は、開発事業と埋蔵文化財保護の円滑な調整を図るために必要なことであるとともに、より一層の埋蔵文化財保護行政を推進していくうえにも重要なことである。

今年度は、近年の現況を緒まえ、以上の観点により、第 章及び第 章で記載したとおり、遺跡の発掘調査と分布調査を実施した。

もとより、今回の調査で市内の埋蔵文化財に関する資料が整備完了したわけではないが、調査を実施したことで、成果を得ることができたことは事実である。

その一つとして、市内の中でも、特に開発事業が予想される地域にあって、予定地内周辺の埋蔵文化財に関する資料が増え、今後の開発事業と埋蔵文化財保護の調整がより早い段階で、円滑に進められることが可能になったということを挙げる事ができる。

なお、本書に取り上げた久栗坂浜田(1)遺跡や飛鳥山館遺跡などは、市民からの連絡で陽の目をみた遺跡であり、このような市民の埋蔵文化財への関心の高揚を大切にしながら、埋蔵文化財保護行政に取り組んでいくことが大事なことであろう。

今回の事業で得たものは成果だけではなく、課題も同等であったこともまた事実であり、その第一として、遺跡の認定基準の確立、さらには、埋蔵文化財の周知方法等である。

今後は、今回の調査で得た成果と課題を検討材料とし、さらに、当事業を継続していく予定である。

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1	1962 『三内霊園遺跡調査概報』
〃	2	1965 『四ッ石遺跡調査概報』
〃	3	1967 『玉清水遺跡調査概報』
〃	4	1970 『三内丸山遺跡調査概報』
〃	5	1971 『野木和遺跡調査報告書』
〃	6	1971 『玉清水 遺跡発掘調査報告書』
〃	7	1971 『大浦遺跡調査報告書』
〃	8	1973 『孫内遺跡発掘調査報告書』
		1979 『螢沢遺跡』
		1983 『四戸橋遺跡調査報告書』
青森市の埋蔵文化財		1983 『山野峠遺跡』
〃		1985 『長森遺跡発掘調査報告書』
〃		1986 『田茂木野遺跡発掘調査報告書』
〃		1986 『横内城遺跡発掘調査報告書』
〃		1988 『三内丸山 遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書第 16 集		1991 『山吹（1）遺跡発掘調査報告書』
〃	第 17 集	1992 『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』
〃	第 18 集	1993 『三内丸山（2）遺跡発掘調査概報』
〃	第 19 集	1993 『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第 20 集	1993 『小牧野遺跡発掘調査概報』

---

青森市埋蔵文化財調査報告書第 19 集

市内遺跡発掘調査報告書

発行年月日 平成 5 年 3 月 31 日

発 行 青森市教育委員会

〒 030 青森市中央一丁目 22 - 5

TEL 0177 - 34 - 1111

印 刷 東北印刷工業株式会社

---